クボタ管理機

取扱説明書

TMB250

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました購入先にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた購入先にご注文ください。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
保証書はよくお読みいただき裏面の保証書 受領証サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・4
安全ラベル・・・・・

点検・整備のしかた……34
エンジン　オイルの交換……34
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃……36
点火プラグの点検・調整・交換……38
耕うん爪(ロータ)の点検・交換……40

使用後の手入れ……42

長期間使用しないときの手入れ……43

故障のときは……45

車への積載のしかた……46
ハンドルのたたみかた……46
車の荷台への積載……47
乗用車への積載……47

主要諸元……48

同梱部品の組付けかた……49

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

警告

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・本機を手で持ち上げて移動する場合は、エンジンを停止させてください。また、本機を落下させたり車軸部に過大な力をかけないでください。本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

警告

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

警告

- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

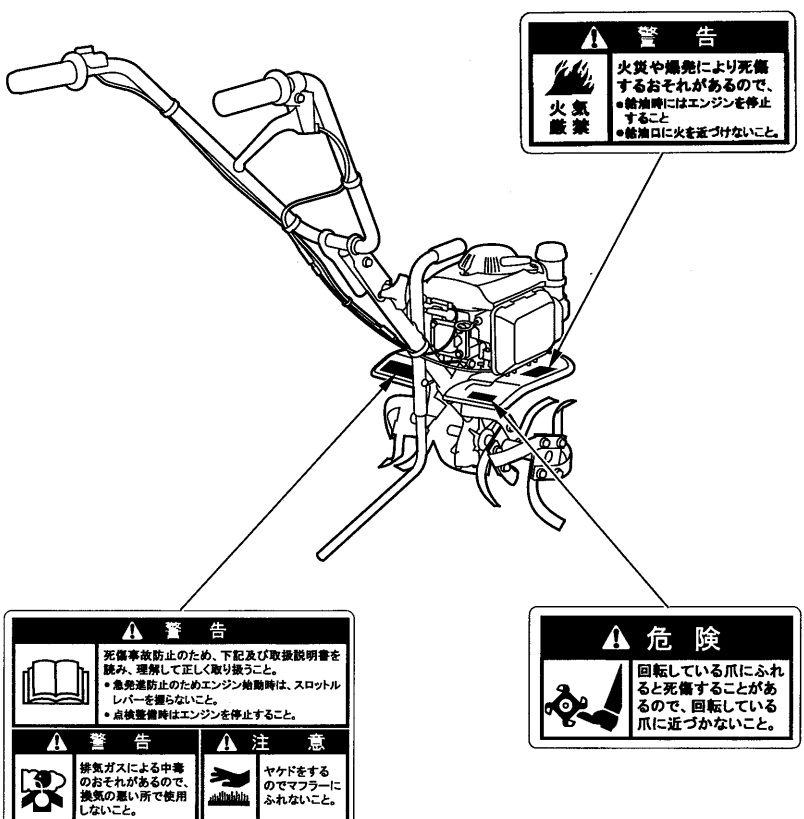
警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンは必ず停止してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ購入先にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた購入先にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

※ フレーム号機および銘板の表示位置は14頁をご覧ください。

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

認定番号

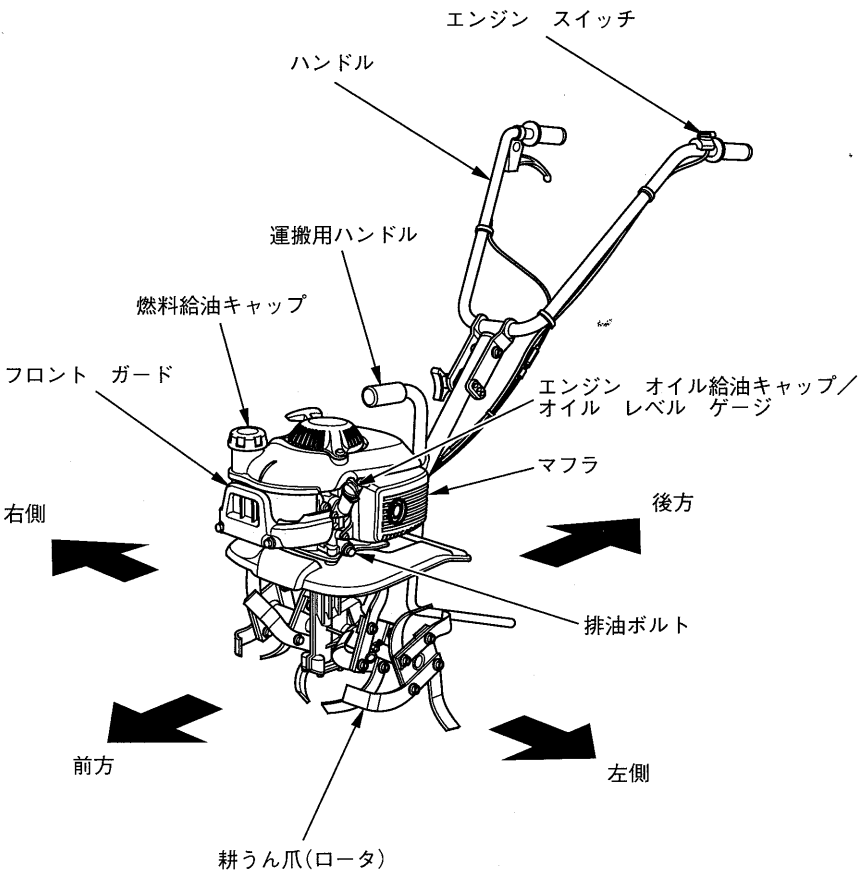
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

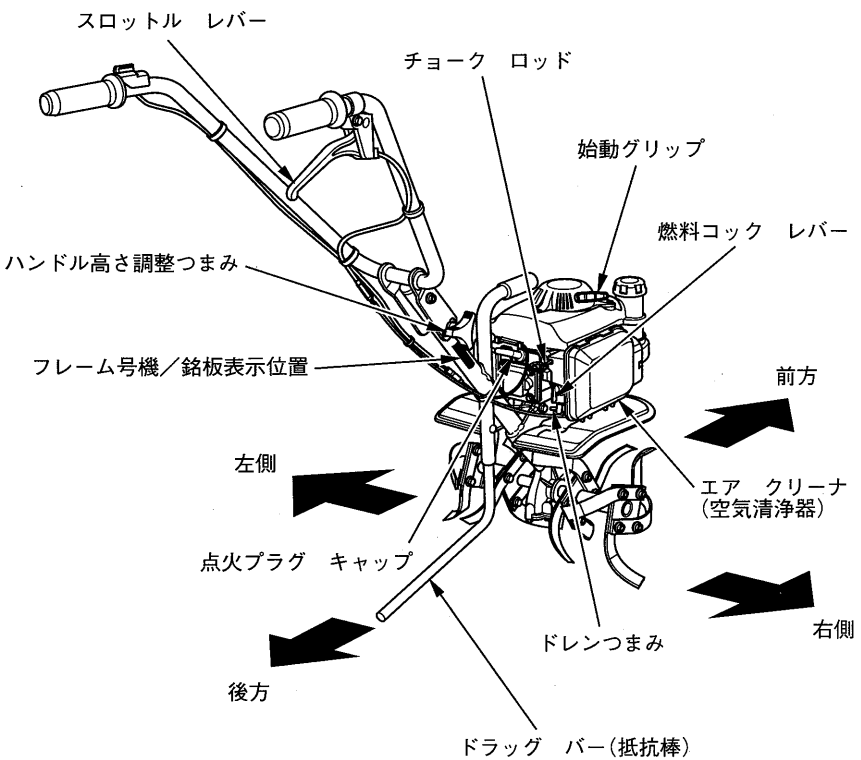
安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダFG201	26173

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた購入先へ**お申しつけください。

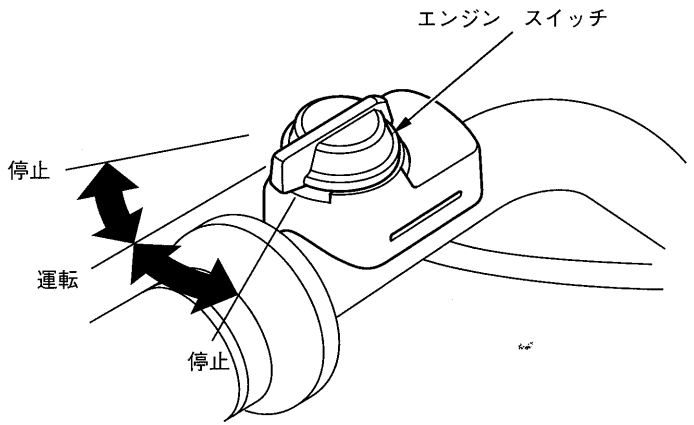
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




スロットル　レバー
チョーク　ロッド
始動グリップ
燃料コック　レバー
ハンドル高さ調整つまみ
フレーム号機／銘板表示位置
前方
左側
エア　クリーナ
（空気清浄器）
点火プラグ　キャップ
右側
ドレンつまみ
後方
ドラッグ　バー（抵抗棒）

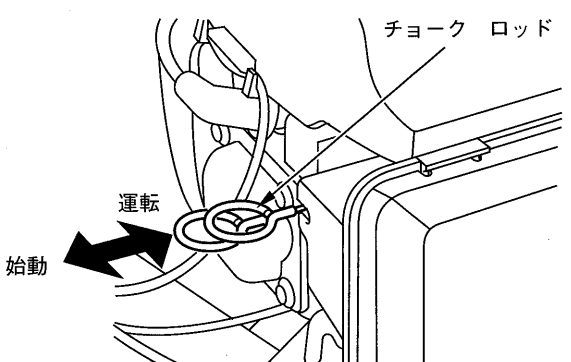
エンジン　スイッチ

エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



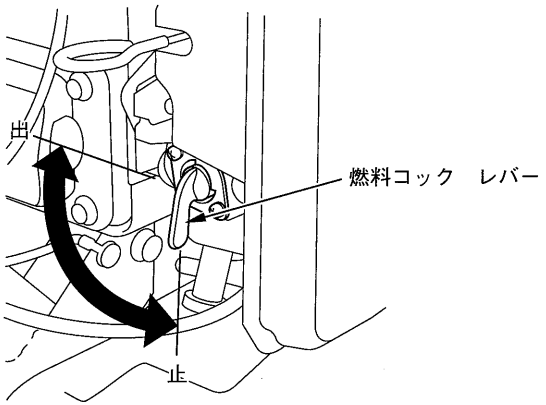
チョーク　ロッド

始動時にエンジンが冷えているときにチョーク　ロッドを**“始動”**の方向に操作します。



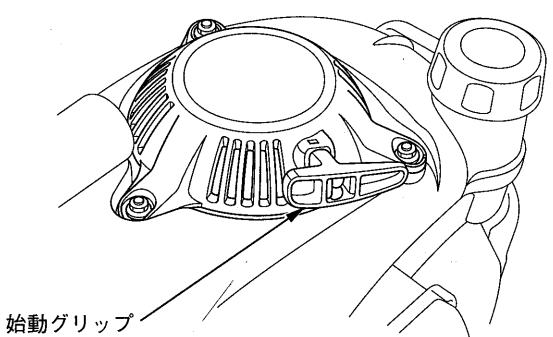
燃料コック　レバー

燃料コック　レバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



始動グリップ

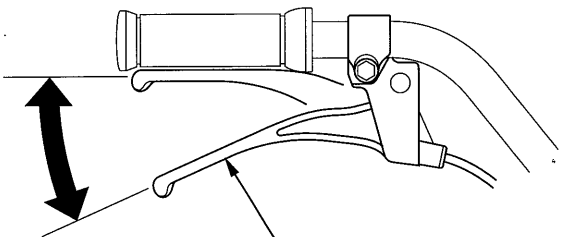
エンジンを始動するときに操作します。



スロットル　レバー

エンジン回転を調整し、同時に車軸の回転、停止を行う装置です。

レバーを握る
エンジン回転が上がります。
同時にクラッチがつながり、
動力が伝わります。

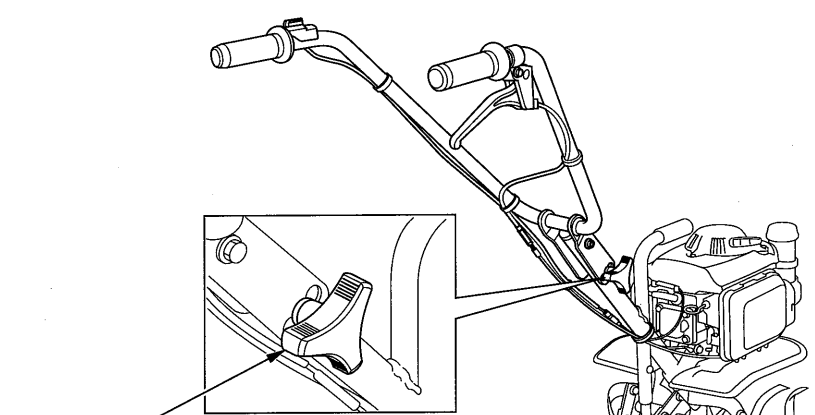


レバーを放す
エンジン回転が下がります。
同時にクラッチが切れ、動力
が切れます。

スロットル　レバー

ハンドル高さ調整つまみ

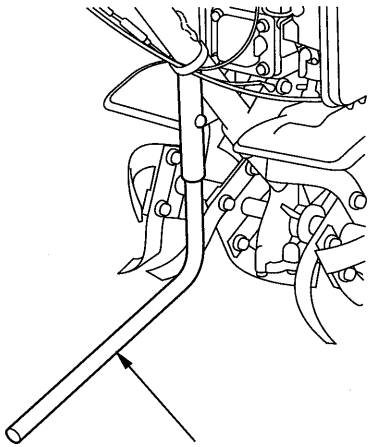
ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるつまみです。
(調整のしかたは26頁参照)



ハンドル高さ調整つまみ

ドラッグ　バー(抵抗棒)

ドラッグ　バーの高さは、ほ場の状態に合わせて3段に調整します。
(調整のしかたは25頁参照)



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- ●本機のまわり……燃料の量(20、21頁参照)、オイルの量(22、23頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- ●レバーの作動……引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- ●各部の締付け……ハンドル高さ調整つまみにゆるみ、ガタはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- ●配線、ケーブル類……被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- ●エンジンの始動、停止……エンジンを始動し、異音はないですか。
  (始動手順は27～29頁参照)
  エンジン　スイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は31、32頁参照)

●その他異常を感じたら直ちにお買いあげ購入先へお申しつけください。

燃料の点検

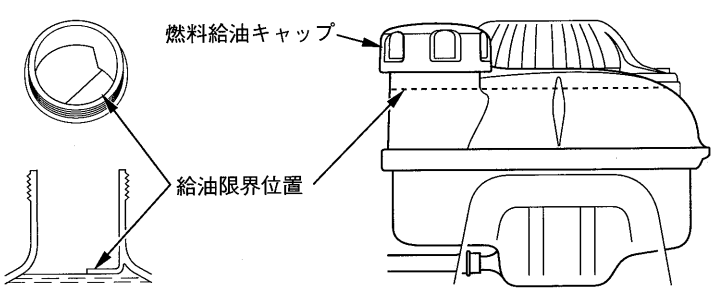
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし、燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



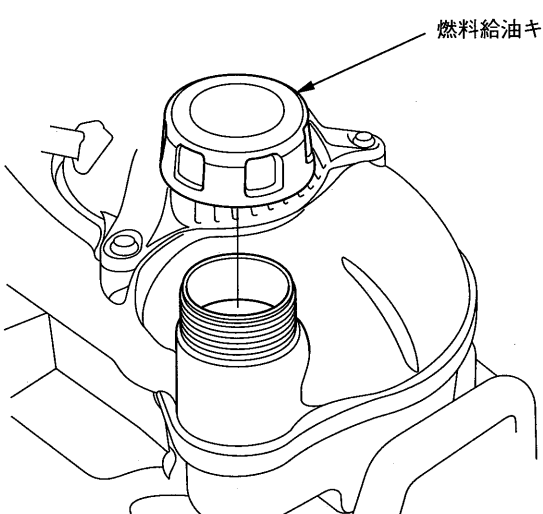
補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

1. 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
   給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップから燃料が漏れることがあります。
2. 補給後、燃料給油キャップを取付け、確実に締付けてください。また燃料給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

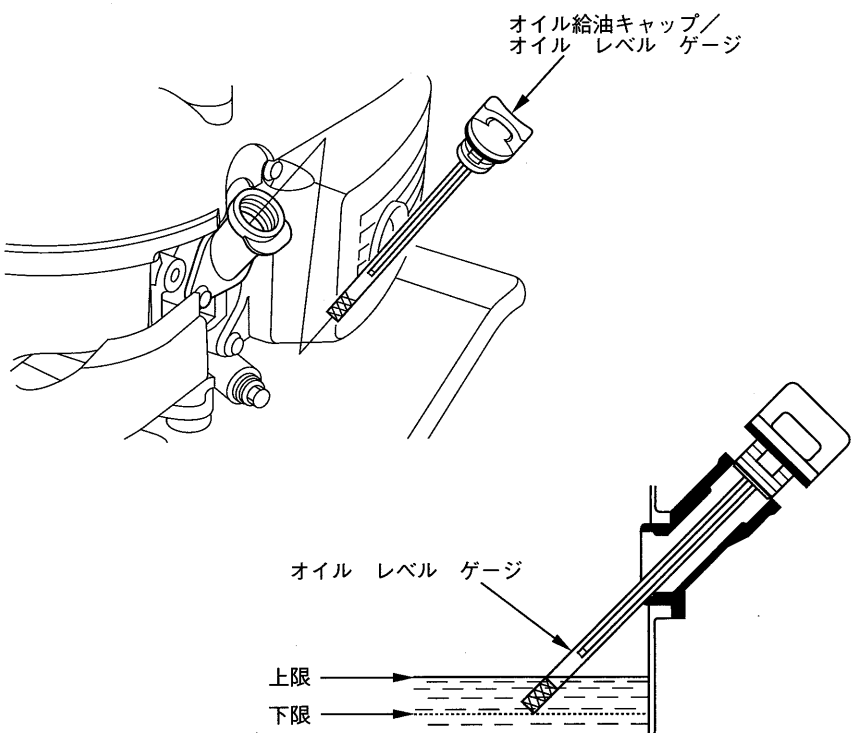
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。



エンジン　オイルの点検

点検

1. 本機を水平にして、エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. オイル給油キャップを外し、オイル　レベル　ゲージを拭き取ります。
3. オイル給油キャップをねじこまず、オイル注入口に差し込んで目盛上限までオイルがあるか点検します。オイルが少ない場合は補給してください。
4. エンジン　オイルの汚れ、変色を点検します。汚れや変色が著しい場合は、エンジン　オイルを交換してください。(交換時期、方法は 34 頁参照)
5. 点検後、エンジン　オイル給油キャップを取付け、確実に締付けます。

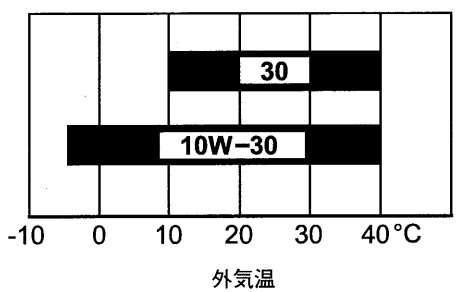


補給

1. 新しいエンジン　オイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで補給します。
2. 補給後、エンジン　オイル給油キャップを取付け、確実に締付けてください。
   - 推奨オイル：(4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル)
     クボタ純オイル G10W-30
     またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイル量：0.30 L

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

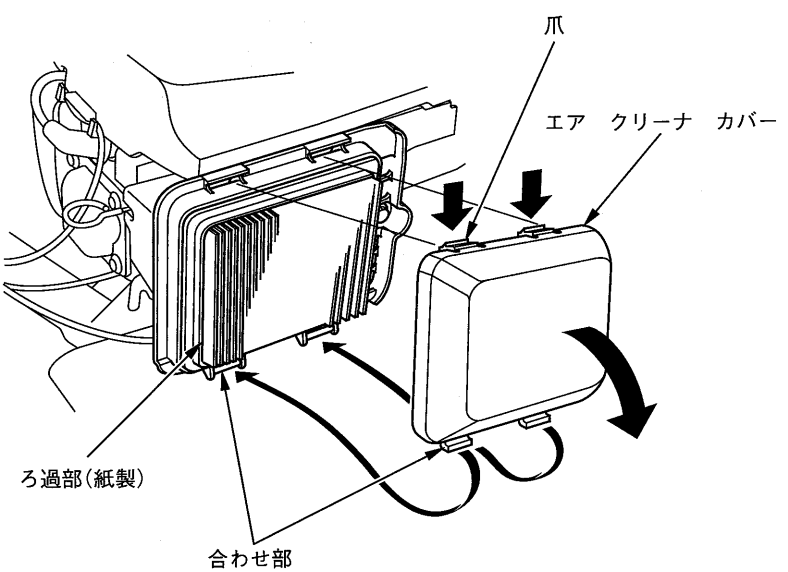
オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

1. エア　クリーナ　カバーを取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部(紙製)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(清掃方法は36頁参照)
3. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、下部2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。



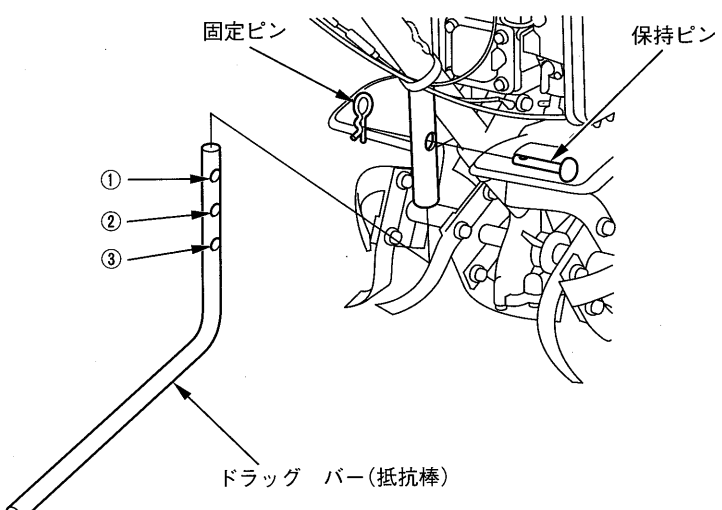
ドラッグ　バー(抵抗棒)の調整

ほ場の状態によりドラッグ　バーの高さを調整します。
通常耕うんする場合は、ドラッグ　バーを②に取り付けます。ほ場が硬くロータが前に進みすぎる場合は、ドラッグ　バーを①に取付けてください。
軟らかいほ場で、ロータが沈んで前に進まない場合は、ドラッグ　バーを③に取付けてください。

調整

1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. 燃料給油キャップ、エンジン　オイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、本機を前方に倒します。
3. 保持ピン、固定ピンを外し、ドラッグ　バーの高さを調整します。作業に合わせて3段に調整できます。

⚠注意
調整は必ずエンジンを停止してから行ってください。

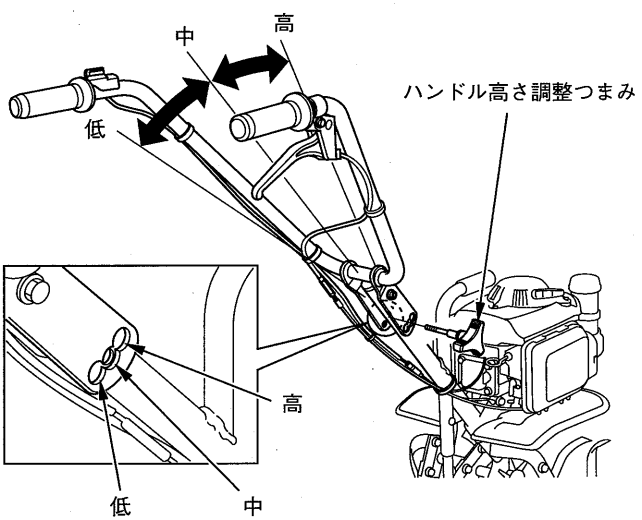


ハンドル高さの調整

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるときに使用します。

調整

1. ハンドル高さ調整つまみを回しゆるめます。
2. ハンドルを保持しながらハンドル高さ調整つまみを取外します。
3. ハンドルを上下に移動し、調整つまみ先端ねじ部を任意の穴に合わせて、ハンドル高さ調整つまみを確実に締付けます。



取扱いのポイント

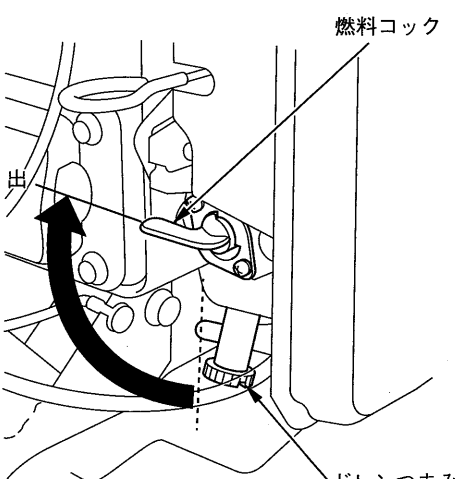
ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

エンジンのかけかた

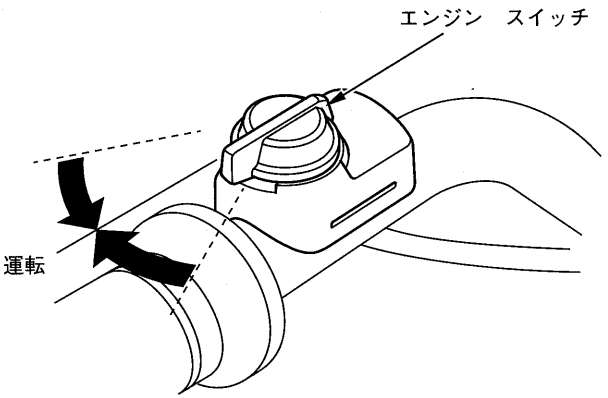
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 始動時はスロットル　レバーを握らないでください。エンジン回転が上がり耕うん爪が回り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

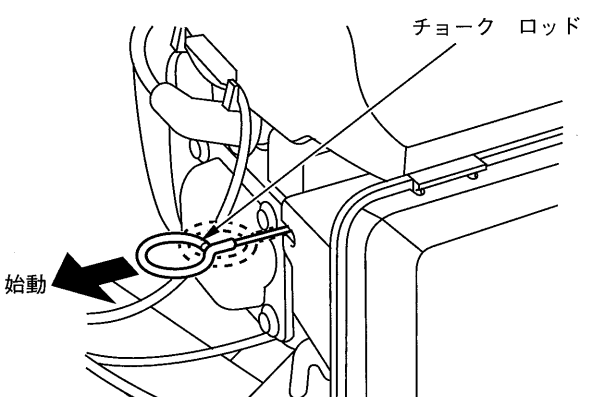
1. 燃料コック　レバーを"出"にします。ドレンつまみが確実に締まっているか確認してください。



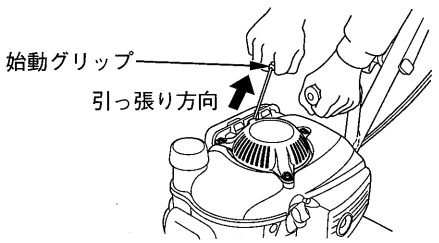
2. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。



3. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　ロッドを**“始動”**の方向に引きます。
エンジンが暖まっているときは、チョーク　ロッドを**“運転”**の位置で始動します。



4. スロットル　レバーが握られた状態でないことを確認してから、運搬用ハンドルを握って本機をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



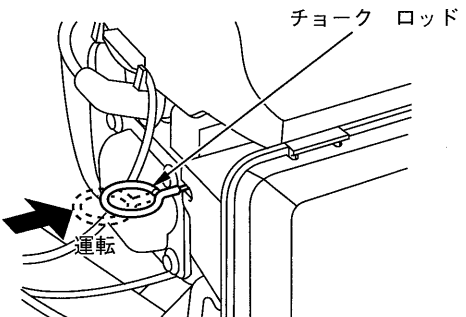
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5. エンジンが始動したら、2～3分間暖機運転を行います。チョークロッドを"始動"にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に"運転"の方向に戻します。



運転操作のしかた

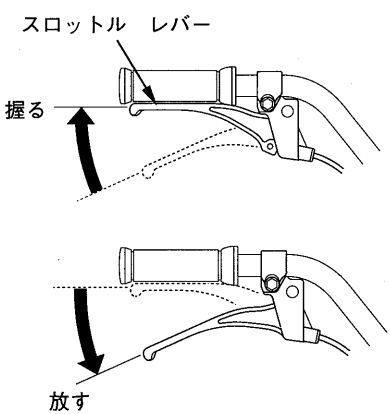
安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”(4頁参照)の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

⚠注意

- 本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 本機を持ち上げるときはエンジンを止めてください。耕うん爪(ロータ)が回転し、衣類などを巻き込みケガをするおそれがあります。

スロットル　レバー

スロットル　レバーを操作することにより、本機の走行および停止が行えます。



レバーを握る→　エンジン回転が上がり、クラッチがつながり、本機が走行します。

レバーを放す→　エンジン回転が下がり、クラッチが切れ、本機が停止します。

取扱いのポイント

- スロットル　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。急激な操作を行うと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ購入先にお問い合わせください。

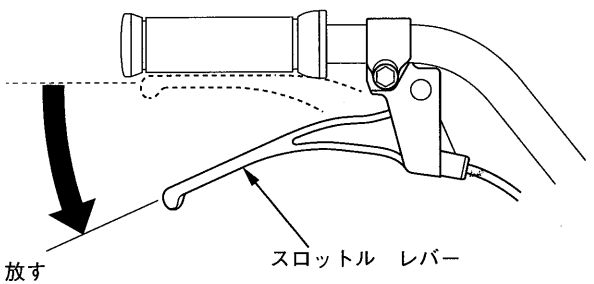
エンジンのとめかた

緊急停止の場合

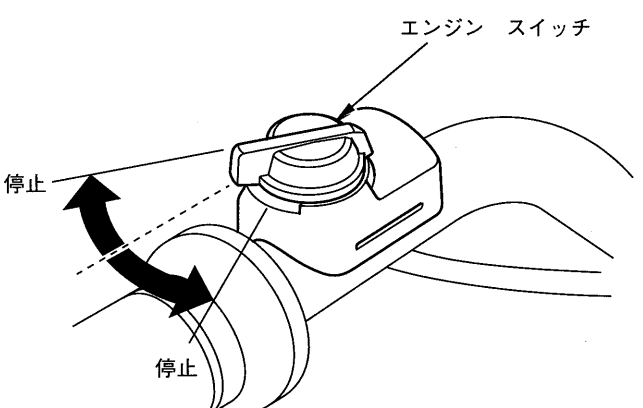
エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。

通常停止の方法

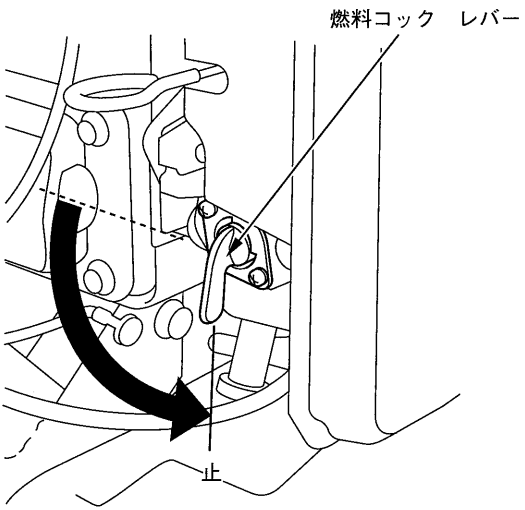
1. スロットル　レバーを放します。



2. エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。



3. 燃料コック　レバーを“止”に合わせます。



定期点検を行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

点検項目	点検時期(3)	稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転時	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジン　オイル	点検、補給		○					22
	交換	○		○		○(4)		34
エア　クリーナ	点検		○					24
	清掃				○(1)			36
	交換						○	36
点火プラグ	点検、調整					○		38
	交換						○	38
本機の周り	点検		○					19
スロットルレバーの作動	点検		○					19
各部の締付け	点検		○					19
配線、ケーブル類	点検		○					19
エンジンの始動、停止	点検		○					19
アイドル回転	点検、調整						○(2)	−
スロットル　レバー	調整						○(2)	−
吸入、排気弁のすき間	点検、調整						○(2)	−
燃焼室	清掃	300時間運転毎(2)(5)						−
燃料タンク(燃料フィルタ付き)	清掃						○(2)	−
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)						−

(1)ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店またはサービス店で実施してください。
(3)点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(4)高負荷、高温で使用した場合は、エンジンオイルは50時間運転毎に交換してください。
(5)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

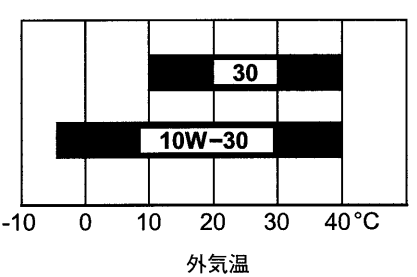
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換時期》　初回：１ヶ月目または20時間運転時、以後６ヶ月毎または100時間運転毎。ただし高負荷、高温で使用した場合は、50時間運転毎。
また稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》（４ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
クボタ純オイル G10W-30
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

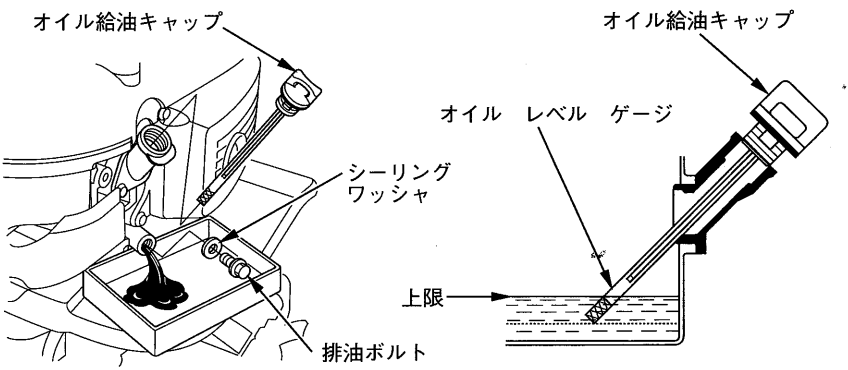
《エンジン　オイル量》 0.30 L

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換のしかた》

1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. 燃料給油キャップが確実に締まっていることを確認します。
3. オイル給油キャップ、排油ボルトを外し、オイルを完全に抜きます。オイルは容器に受けてください。



4. 新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
5. 新しいエンジン　オイルをオイル　レベル　ゲージで確認しながら上限まで注入します。
6. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

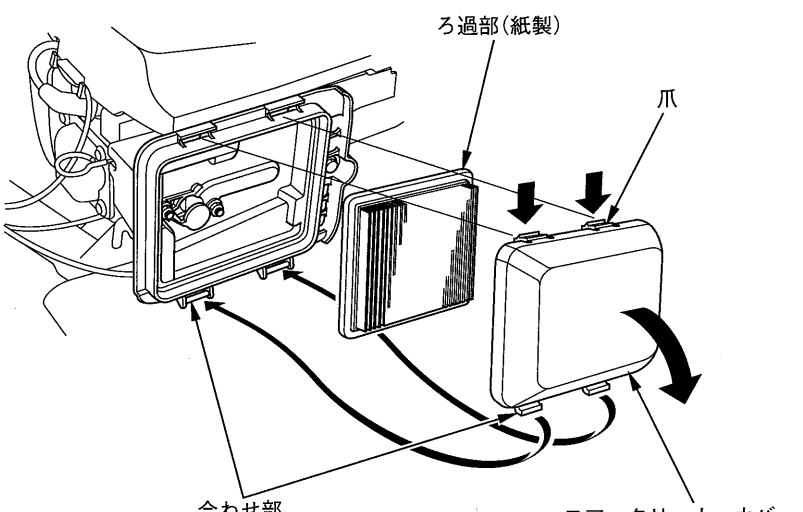
取扱いのポイント

- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

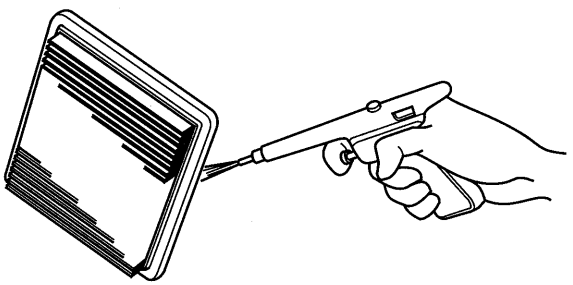
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》　3か月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は、10時間運転毎または1日1回行ってください。
《交換時期》　1年毎または300時間運転毎
《清掃のしかた》
1. エア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部(紙製)を取外します。
エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。



2. ろ過部の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



3. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。
エア　クリーナ　カバーの取付けは、下部2か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行ないます。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

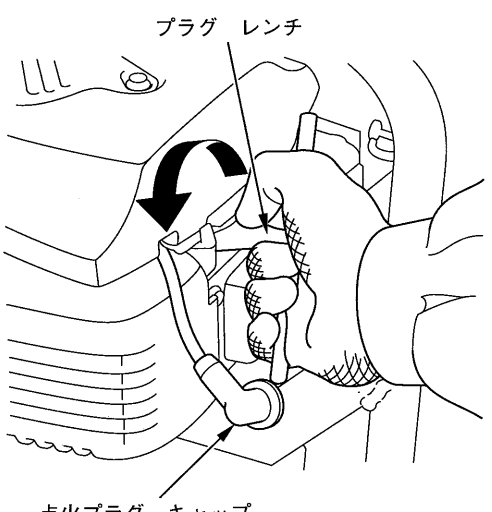
⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

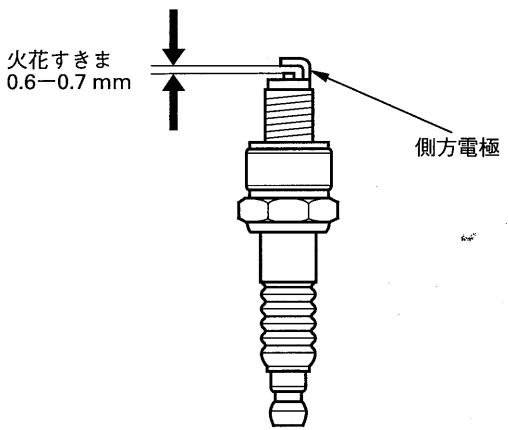
《点検・調整時期》　6か月毎または100時間運転毎
《交換時期》　1年毎または300時間運転毎

《清掃のしかた》

1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ購入先をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調整のしかた》
側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.6－0.7 mm
《標準プラグ》
C4HSB (NGK), U14FS-UB (DENSO)



取扱いのポイント

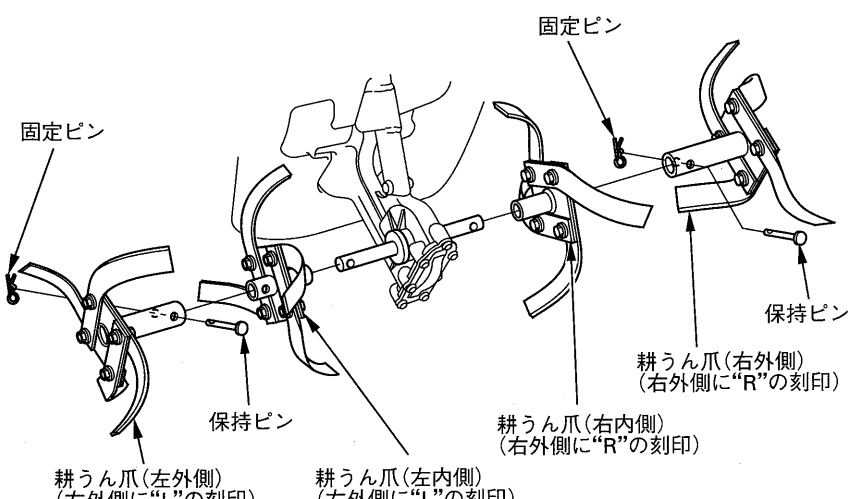
- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

耕うん爪(ロータ)の点検・交換

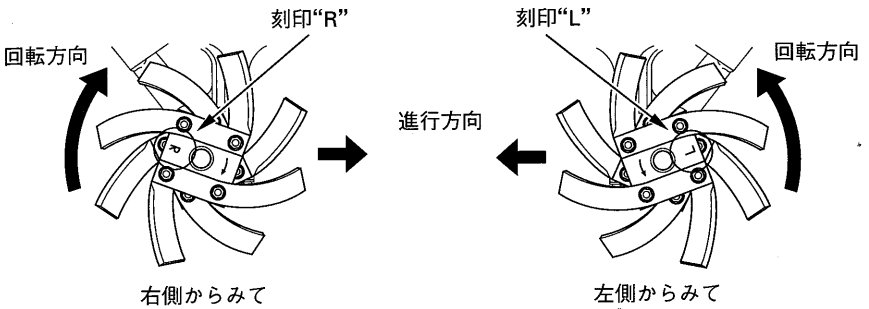
⚠注意
耕うん爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

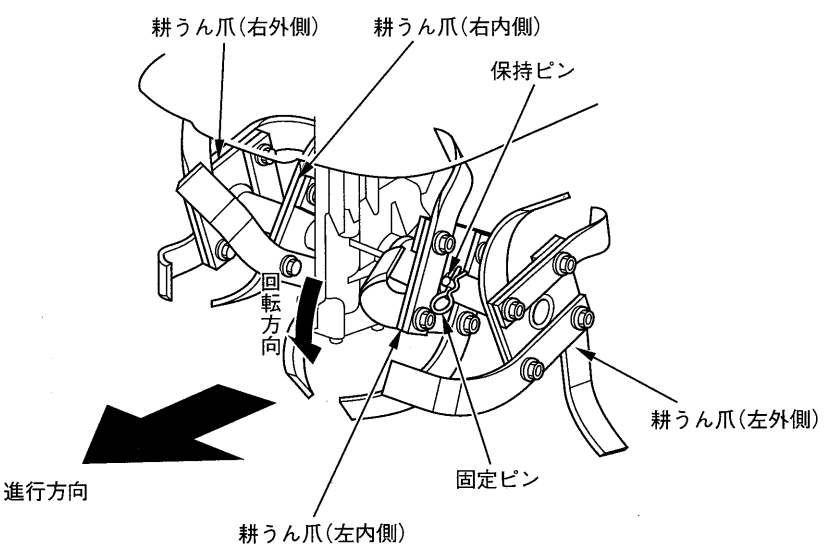
《点検のしかた》
1. 耕うん爪の損傷、曲がりがないか点検してください。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しいピンと交換してください。

《交換のしかた》
1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2. エンジン　オイル給油キャップ、燃料給油キャップが確実に締まっていることを確認し、本機を前に静かに倒します。
3. 固定ピン、保持ピンを外し、耕うん爪(ロータ)を外します。



4. 耕うん爪(ロータ)を取付け、保持ピン、固定ピンを取付けます。
固定ピンは図のように回転方向と逆に差し込んでください。
耕うん爪を交換した場合は耕うん爪を左右対称に取付けます。





取扱いのポイント

耕うん爪は純正部品を使用してください。

使用後の手入れ

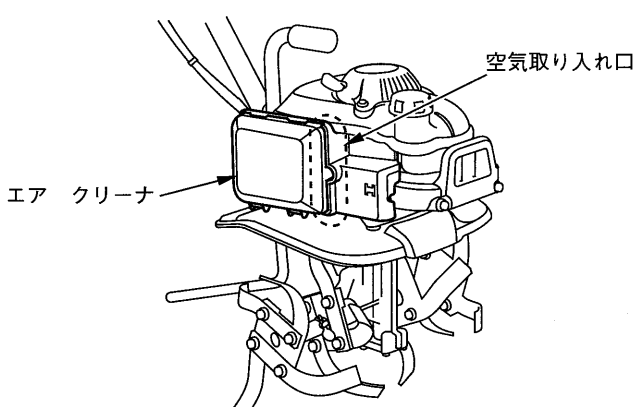
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本体やロータ部分についた土、わら、草やよごれなどを落としてください。
2. エア　クリーナについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

洗車する場合はエア　クリーナの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠注意

- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

1.本機各部の清掃を行います。
2.燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

⚠警告

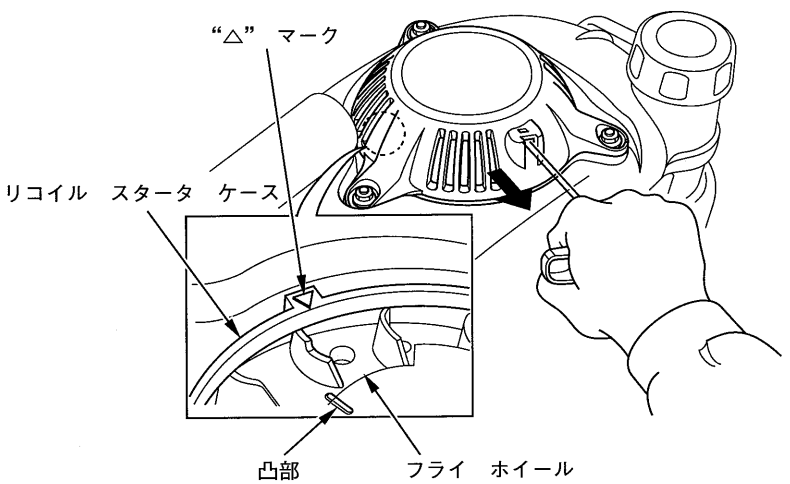
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜きかた》

1) 燃料コック　レバーを"出"にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(燃料排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。

3) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コック　レバーを**"閉"**にします。

3. エンジン　オイルを交換します。(交換方法は34 頁参照)
4. エア　クリーナを清掃します。(清掃方法は36 頁参照)
5. 始動グリップを引きフライ　ホイールの凸部をリコイル　スタータ　ケースの"△"マークに合わせます。
(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)



6. チョーク　ロッドを**"始動"**の位置にします。
7. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ購入先へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

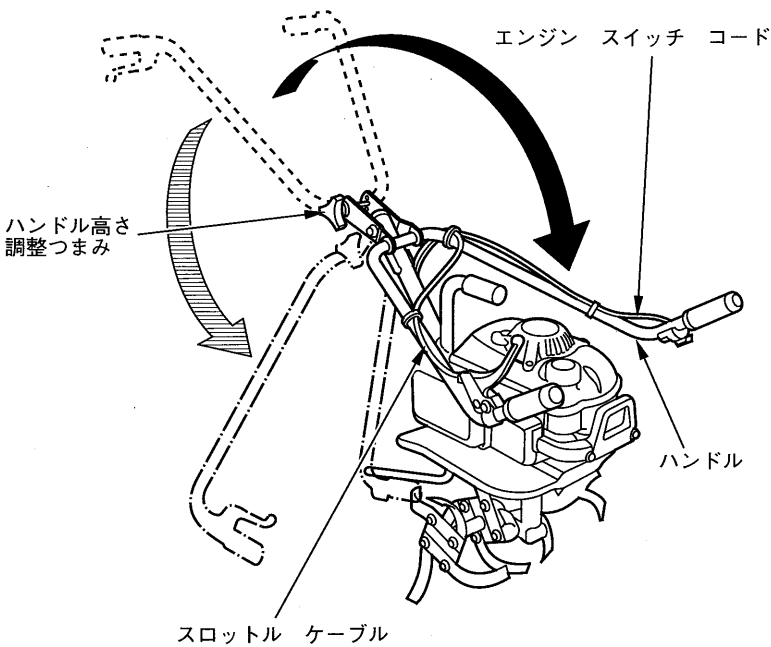
1. 始動方法は取扱説明書通りですか?(27～29頁参照)
2. 燃料はありますか?(20頁参照)
3. エンジン　オイルはオイル　レベル　ゲージの目盛上限までありますか?(22頁参照)
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?(38、39頁参照)

少し時間をおいてもう一度確めましょう

車への積載のしかた

ハンドルのたたみかた

1. ハンドル高さ調整つまみを取外します。
2. 本機を押さえてハンドルを静かに前方に倒してハンドルをたたみます。スロットル　ケーブル、エンジン　スイッチ　コードをひっかけないように注意してください。
3. ハンドル高さ調整つまみを紛失しないように、取付け部に取付けてください。

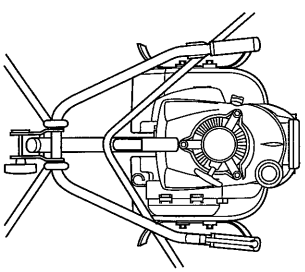


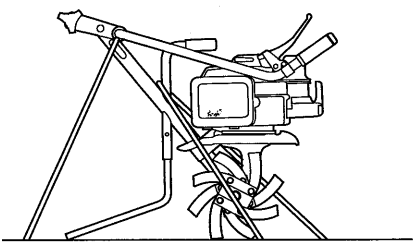
- ハンドルは後方にもたたむことができます。
- ハンドルを伸ばすときは、逆の手順でもとの位置に戻し、ハンドル高さ調整つまみをガタのないように確実に締付けてください。

車の荷台への積載

1. 燃料タンク、キャブレータの燃料を抜きます(抜きかたは43頁参照)
   本機を車の荷台に積載します。
2. ハンドルをたたみます。(たたみかたは46頁参照)
3. ロープなどで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープ
4. を締付けないでください。

《ロープのかけかた》





乗用車への積載

1. 燃料タンク、キャブレータの燃料を抜きます。(抜きかたは43頁参照)
   ハンドルをたたみます。(たたみかたは46頁参照)
2. 燃料給油キャップ、エンジン　オイル給油キャップが確実に締まって
3. いることを確認し、左側(マフラ側)を下に倒した状態で車に積載しま
   す。本機が動かないように、ウエスなどで固定してください。

・必要な場合は、耕うん爪(ロータ)を外します。(外しかたは40頁参照)

主要諸元

名称		クボタTMB250
型式		ホンダFG201
区分		クボタTMB250
寸機体法	全長	1,050 mm
	全幅	475 mm
	全高	995 mm
全装備質量（重量）		17 kg
エンジン	名称	GXV50
	形式	空冷４ストローク単気筒
	内径×行程	41.8 mm × 36.0 mm
	総排気量	49.4 cm^3
	連続定格出力／回転速度	1.1 kW (1.5 PS) / 4,600 rpm
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	0.35 L
	エンジン オイル量	0.30 L
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火式
	標準点火プラグ	(DENSO)　U14FS-UB (NGK)　C4HSB
	始動方式	リコイル　スタータ
主クラッチ方式		遠心クラッチ
安全鑑定適合番号		26173

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付け方

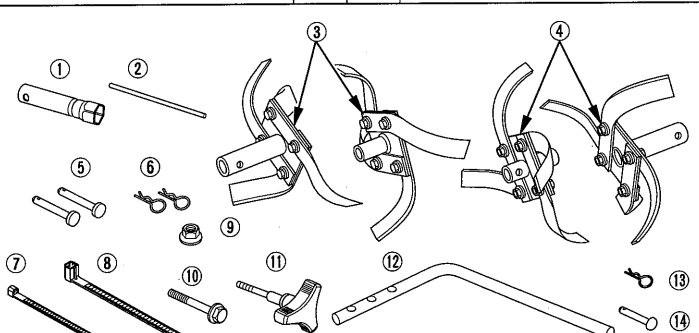
次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

⚠注意
取付け作業は必ず手袋を着用して２人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間、１人は本機が倒れないようにささえてください。

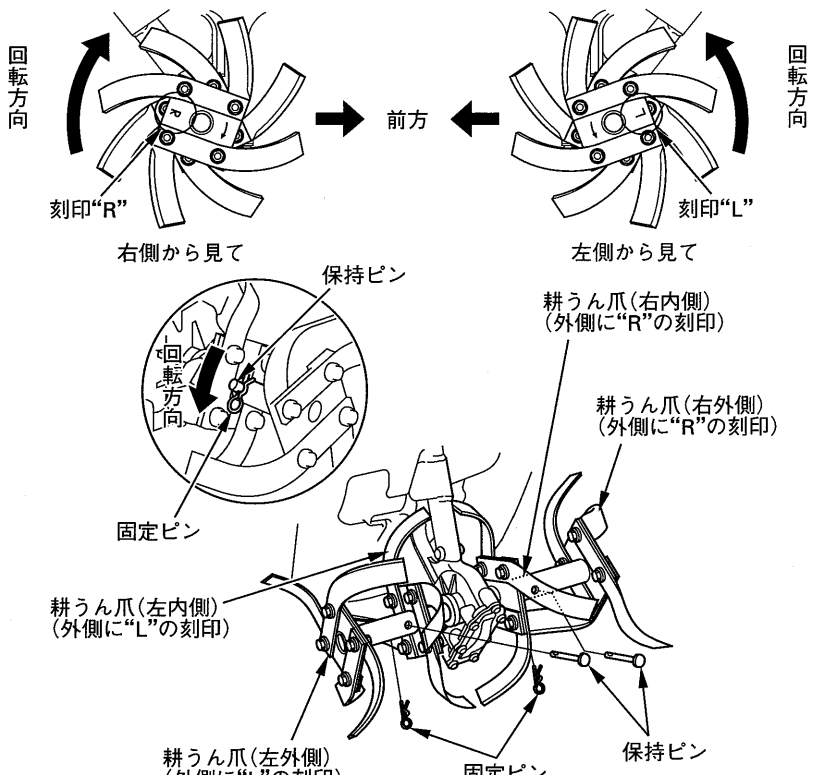
1. 梱包を開き、同梱部品、本機を取り出します。本機は平らな場所にフロントガードを下にし静かに置きます。
   ハンドルと本機間のエンジン　スイッチ　コード、スロットル　ケーブルをむりに引っ張らないように注意してください。
2. 下記同梱部品リストで部品点数、及び損傷の有無を確認してください。

同梱部品リスト

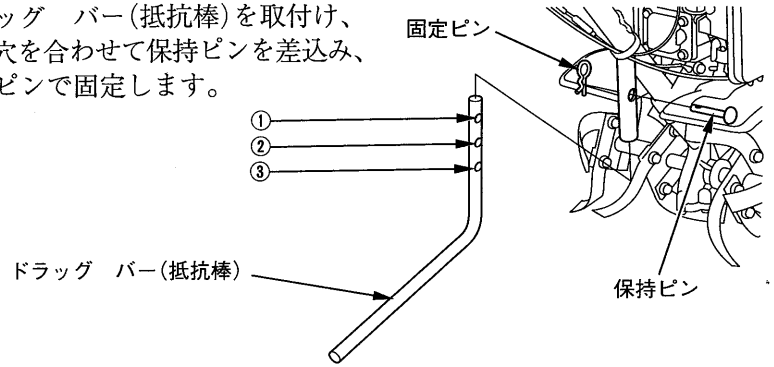
No.	部　品　名	個数	No.	部　品　名	個数
①	プラグ レンチ	1	⑧	ワイヤ　バンドB	1
②	プラグ レンチ ハンドル	1	⑨	8mmセルフ　ロック　ナット	1
③	耕うん爪(右側)	1	⑩	8×65mmフランジ　ボルト	1
④	耕うん爪(左側)	1	⑪	ハンドル高さ調整つまみ	1
⑤	保持ピン	2	⑫	ドラッグ　バー(抵抗棒)	1
⑥	固定ピン	2	⑬	固定ピン	1
⑦	ワイヤ　バンドA	1	⑭	保持ピン	1



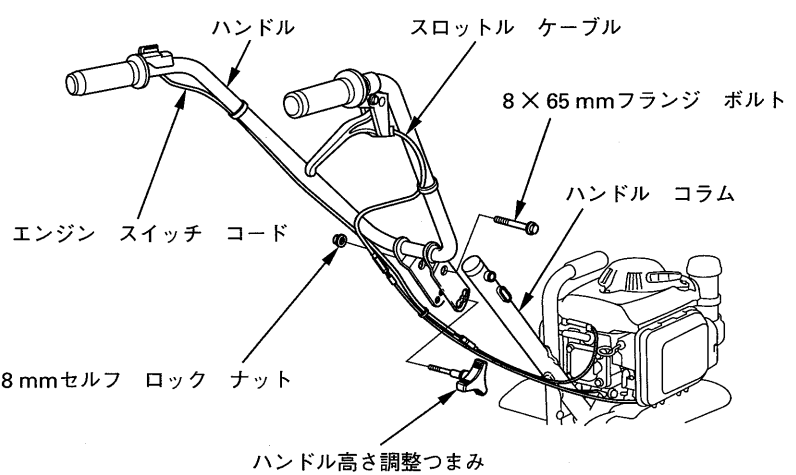
3. 耕うん爪(右内側)、耕うん爪(右外側)の順で本機のロータ　シャフト右側に、それぞれの刻印"R"が外側から見えるように取付けます。
このとき耕うん爪の矢印が回転方向を向いていることを確認してください。
4. ピン穴を合わせて保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。
固定ピンは図のように回転方向と逆に差込みます。
5. 耕うん爪(左内側)、耕うん爪(左外側)の順で本機のロータ　シャフト左側に、それぞれの刻印"L"が外側から見えるように取付けます。
このとき耕うん爪の矢印が回転方向を向いていることを確認してください。
6. ピン穴を合わせて保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。
固定ピンは図のように回転方向と逆に差込みます。



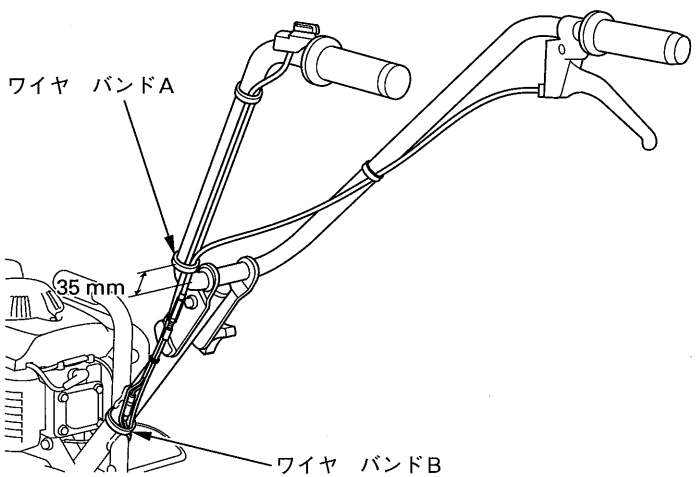
7. ドラッグ　バー(抵抗棒)を取付け、③の穴を合わせて保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。



8. 本機を起こします。
ハンドルと本機間のエンジン　スイッチ　コード、スロットル　ケーブルをむりに引っ張らないように注意してください。
9. ハンドルを本機のハンドル　コラムに取付け、8 × 65 mmフランジ　ボルト、8 mmセルフ　ロック　ナットを仮付けします。エンジン　スイッチ　コード、スロットル　ケーブルは図のようにハンドル　コラムの右側を通してください。
10. ハンドル高さ調整つまみを中央の穴に合わせ取付けます。
11. 12 mmスパナ2本を使用して、8 mmフランジ　ボルト、セルフ　ロック　ナットを確実に締付けます。



12.ワイヤ　バンドAを使用して、スロットル　ケーブル、およびエンジン　スイッチ　コードを図の位置でハンドルに固定します。
13.ワイヤ　バンドBを使用して、スロットル　ケーブル、およびエンジン　スイッチ　コードを図の位置でハンドル　コラムに固定します。



14.エンジン　オイル、燃料を補給します。
- エンジン　オイルの補給(23頁参照)
- 燃料の補給(21頁参照)

15.取扱方法、エンジンの始動、停止方法をよく理解してから、エンジンを始動してください。
- エンジンのかけかた(27～29頁参照)
- エンジンのとめかた(31、32頁参照)

16.ドラッグ　バー(抵抗棒)の高さ調整が必要な場合(25頁参照)

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は**まず，購入先へ** ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー
ご購入日	型式	車台（製造）番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら,下記にお問い合わせ下さい。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北 16 丁目 1 番 1 号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路 207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原 182 番地の 1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀 5 丁目 2 番 36 号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上 1 丁目 14 番 15 号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町 956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町 1 番地の 1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜 1 丁目 1 番 1 号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘 275 番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町 430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向 647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘 1 丁目 7 番 3 号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江 846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247	〒590-0823	堺市堺区石津北町 64 番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北 16 丁目 1 番 1 号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀 5 丁目 2 番 36 号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜 1 丁目 1 番 1 号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘 1 丁目 7 番 3 号

安全はクボタの願い

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号　〒556-8601

30V18K10
00X30-V18-K100

Kubota

Ⓢ Ⓝ ⒽⒸ 300.2008.06